

防災の日特集

# 上下水道局の防災対策



## 万全の体制で、災害に負けない水道・下水道

水道・下水道は生活に欠くことのできないライフラインの1つです。水道施設が壊れるような大地震が起きたとき、みなさまの飲み水を確保するための応急給水活動と、水道管の破損による断水・漏水などに対応するための応急復旧活動を同時に進める必要があります。そのため日ごろから訓練を行って、迅速な活動ができるように備えています。また、下水道についても重要施設の耐震化や、災害発生時に有効な下水道マンホール対応型のトイレシステムの整備を進めています。

▶ 水道が復旧するまでの流れ

水道管路等の復旧の手順は、原則として水源から順次給水に至るまで、上流から水の流れてから復旧していきます。



**防災フェスタ**  
2010 in アゼリア

! information 上下水道局が、防災フェスタ 2010 in アゼリアに出展します。ぜひご来場ください。

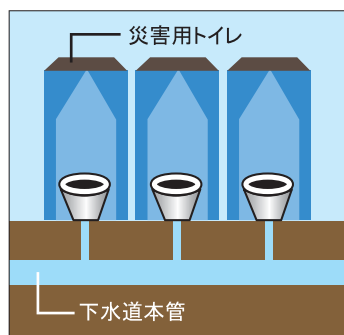
- ★日時・会場 平成 22 年 9 月 1 日(水) 11 時から 16 時まで・川崎地下街アゼリア(スタジオアゼリア及びサンライト広場)
- ★出展内容 防災用ポリタンクの展示、耐震管の展示、水道水のくみ置きをお願いなど



## 大規模災害への 下水道の取り組み

**大** 規模地震などが発生して、下水道施設が被災し、その機能を果たすことができなくなった場合、市民生活に重大な影響を生じる恐れがあります。

そのため、川崎市上下水道局では「川崎市下水道総合地震対策計画」を策定し、被害をできるだけ少なくするよう、重要な下水道施設の耐震化を進めています。また、災害時には広域避難場所において、従来の災害用トイレとあわせて、汚水を下水道管に直接流すことができる下水道マンホール対応型のトイレシステムの整備を進めています。



下水道マンホール対応型のトイレシステム

## >> ご家庭で水の備蓄を

いつ起こるか分からない地震。災害に備えて、普段から水道水を備蓄しておきましょう。人間が生命を維持するために必要な飲み水の量は1日2～2.5リットルといわれています。それに若干の余裕を加えた3リットルの飲み水を3日分、合計9リットルをご家庭で備蓄しておいてください。

**[ 水道水を保存するときのポイント ]**

- 01 密栓できる容器をよく洗い、口元いっぱいになるまで水道水を入れてください。
- 02 保存場所は、直射日光の当たらない冷暗所を選んでください。
- 03 残留塩素は容器が大きいほど長く残ります。保存期間は水道水 20 リットルで約 1 週間程度が目安です。残留塩素がなくなると細菌などが繁殖しやすくなりますので、3 日に 1 度は水道水を交換するようにしてください。

